

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 10 月 10 日 (2019.10.10)

【公開番号】特開 2019-141216 (P2019-141216A)

【公開日】令和 1 年 8 月 29 日 (2019.8.29)

【年通号数】公開・登録公報 2019-035

【出願番号】特願 2018-26761 (P2018-26761)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 8 月 20 日 (2019.8.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 可変表示を行う第 1 可変表示手段と、第 2 可変表示を行う第 2 可変表示手段とを備え、前記第 1 可変表示手段と前記第 2 可変表示手段とのいずれかにおける表示結果が特定表示結果となったときに、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

前記第 1 可変表示手段による第 1 可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶する第 1 保留記憶手段と、

前記第 2 可変表示手段による第 2 可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶する第 2 保留記憶手段と、

前記第 2 保留記憶手段の保留記憶情報に基づく前記第 2 可変表示手段の第 2 可変表示を、前記第 1 保留記憶手段の保留記憶情報に基づく前記第 1 可変表示手段の第 1 可変表示よりも優先して実行する制御を行なう優先制御手段と、

所定条件の成立に基づいて、所定可変表示回数に亘り、少なくとも前記第 2 可変表示が通常状態よりも可変表示がされやすい時短状態に制御する時短制御手段と、

前記時短状態中に実行可能な可変表示の残回数を表示する時短残回数表示手段と、

前記残回数の表示を制御可能な残回数表示制御手段と、を備え、

前記時短制御手段は、少なくとも、前記時短状態中における前記第 1 可変表示および前記第 2 可変表示の合計回数が第 1 回数になった第 1 条件と、前記時短状態中における前記第 2 可変表示の回数が前記第 1 回数よりも少ない第 2 回数になった第 2 条件とのいずれか一方の条件が成立したに基づいて前記時短状態を終了させ、

前記残回数表示制御手段は、

少なくとも、前記第 1 条件が成立するまでの前記第 1 可変表示および前記第 2 可変表示の合計回数の残回数が、前記第 2 条件が成立するまでの前記第 2 回数の残回数を超えているときは、前記残回数として当該第 2 回数の残回数を表示し、

少なくとも、前記第 1 条件が成立するまでの前記第 1 可変表示および前記第 2 可変表示の合計回数の残回数が、前記第 2 条件が成立するまでの前記第 2 回数の残回数未満であるときは、前記残回数として当該合計回数の残回数を表示し、

前記時短状態中において前記第 2 可変表示についての前記残回数の表示がされているときに前記第 1 可変表示が実行された場合は、当該残回数の表示を行わないように表示制御をすることが可能である、

ことを特徴とする、遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(A) 本発明に係る遊技機は、第1可変表示を行う第1可変表示手段と、第2可変表示を行う第2可変表示手段とを備え、前記第1可変表示手段と前記第2可変表示手段とのいずれかにおける表示結果が特定表示結果となったときに、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

前記第1可変表示手段による第1可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶する第1保留記憶手段と、

前記第2可変表示手段による第2可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶する第2保留記憶手段と、

前記第2保留記憶手段の保留記憶情報に基づく前記第2可変表示手段の第2可変表示を、前記第1保留記憶手段の保留記憶情報に基づく前記第1可変表示手段の第1可変表示よりも優先して実行する制御を行なう優先制御手段と、

所定条件の成立に基づいて、所定可変表示回数に亘り、少なくとも前記第2可変表示が通常状態よりも可変表示がされやすい時短状態に制御する時短制御手段と、

前記時短状態中に実行可能な可変表示の残回数を表示する時短残回数表示手段と、

前記残回数の表示を制御可能な残回数表示制御手段と、を備え、

前記時短制御手段は、少なくとも、前記時短状態中における前記第1可変表示および前記第2可変表示の合計回数が第1回数になった第1条件と、前記時短状態中における前記第2可変表示の回数が前記第1回数よりも少ない第2回数になった第2条件とのいずれか一方の条件が成立したことに基づいて前記時短状態を終了させ、

前記残回数表示制御手段は、

少なくとも、前記第1条件が成立するまでの前記第1可変表示および前記第2可変表示の合計回数の残回数が、前記第2条件が成立するまでの前記第2回数の残回数を超えているときは、前記残回数として当該第2回数の残回数を表示し、

少なくとも、前記第1条件が成立するまでの前記第1可変表示および前記第2可変表示の合計回数の残回数が、前記第2条件が成立するまでの前記第2回数の残回数未満であるときは、前記残回数として当該合計回数の残回数を表示し、

前記時短状態中において前記第2可変表示についての前記残回数の表示がされているときに前記第1可変表示が実行された場合は、当該残回数の表示を行わないように表示制御をすることが可能である、

ことを特徴とする。

(1) また、他の遊技機として、第1可変表示(第1特別図柄の可変表示等)を行う第1可変表示手段(第1特別図柄表示器8a等)と、第2可変表示(第2特別図柄の可変表示等)を行う第2可変表示手段(第2特別図柄表示器8b等)とを備え、前記第1可変表示手段と前記第2可変表示手段とのいずれかにおける表示結果が特定表示結果(大当り表示結果等)となったときに、遊技者にとって有利な有利状態(大当り遊技状態等)に制御可能な遊技機(パチンコ遊技機1等)であって、

前記第1可変表示手段による第1可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶する第1保留記憶手段(遊技制御用マイクロコンピュータ560、RAM55、第1保留記憶バッファ等)と、

前記第2可変表示手段による第2可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶する第2保留記憶手段(遊技制御用マイクロコンピュータ560、RAM55、第2保留記憶バッファ等)と、

前記第2保留記憶手段の保留記憶情報に基づく前記第2可変表示手段の第2可変表示を

、前記第 1 保留記憶手段の保留記憶情報に基づく前記第 1 可変表示手段の第 1 可変表示よりも優先して実行する制御を行なう優先制御手段（遊技制御用マイクロコンピュータ 560、図 12 の S 52 ~ S 54 等）と、

所定条件の成立に基づいて、所定可変表示回数に亘り、少なくとも前記第 2 可変表示が通常状態よりも可変表示がされやすい時短状態に制御する時短制御手段（遊技制御用マイクロコンピュータ 560、図 14 の S 163 ~ S 170 等）と、

前記時短状態中に実行可能な可変表示の残回数を表示する時短残回数表示手段（演出表示装置 9、時短残回数表示部 96 等）と、

前記残回数の表示を制御可能な残回数表示制御手段（演出制御用マイクロコンピュータ 100、図 33 - 2（B）の S 925 ~ S 929 等）とを備え、

前記時短制御手段は、少なくとも、前記時短状態中における前記第 1 可変表示および前記第 2 可変表示の合計回数が第 1 回数（11 回等）になった第 1 条件と、前記時短状態中における前記第 2 可変表示の回数が前記第 1 回数よりも少ない第 2 回数（7 回等）になった第 2 条件とのいずれか一方の条件が成立したに基づいて前記時短状態を終了させ（遊技制御用マイクロコンピュータ 560、図 2 の時短状態の設定、図 13 の S 142 ~ S 151 等）、

少なくとも、前記第 1 条件が成立するまでの前記第 1 可変表示および前記第 2 可変表示の合計回数の残回数が、前記第 2 条件が成立するまでの前記第 2 回数の残回数を超えているときには、前記残回数として当該第 2 回数の残回数を表示し（図 33 - 1 の（B）~（G）、図 33 - 2（B）の S 927, S 928、図 33 - 3 の（B）~（G）、図 33 - 4（B）の S 927, S 928 等）、

少なくとも、前記第 1 条件が成立するまでの前記第 1 可変表示および前記第 2 可変表示の合計回数の残回数が、前記第 2 条件が成立するまでの前記第 2 回数の残回数未満であるときには、前記残回数として当該合計回数の残回数を表示する（図 33 - 1 の（H）、図 33 - 2（B）の S 927, S 929、図 33 - 2 の（H）、図 33 - 4（B）の S 927, S 929 等）、

ことを特徴としてもよい。